

会 議 録

会議名	平成 27 年度 第 4 回 丸亀市未来を築く地域戦略会議
開催日時	平成 27 年 9 月 18 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 15
開催場所	丸亀市役所 本館 2 階第 3 会議室
出席者	<p>(出席した委員)</p> <p>村山 卓 糸杉 宗州 田岡 洋司 高木 和代 中田 陽子 善勝 光一 佐藤 国夫 三谷 雄治 明石 安哲 新川 裕司 西川 真智子 守家 敬子 高木 明美 奥田 徹 松井 信子 伊藤 智也 三井 喜代子</p> <p>(欠席した委員)</p> <p>漆原 光徳 日野 明世 横田 幸司</p> <p>(説明のために出席した者)</p> <p>市長公室長 山田 哲也 政策課長 大喜多 章親 政策課副課長 富士川 貴 政策課担当長 志村 芳隆 政策課主査 真鍋 裕章</p>
議 題	<p>1. 丸亀市人口ビジョン及び丸亀市未来を築く総合戦略（素案）について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0 名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
大喜多政策課長	<p>本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。ただ今より、丸亀市未来を築く地域戦略会議を開会いたします。ここからの会議の進行につきましては、丸亀市附属機関設置条例第 7 条の規定に基づき、村山会長にお願いいたします。</p>
村山会長	<p>それでは会議を進めさせていただきます。はじめに、本日の会議は、現時点で委員総数 20 名中 15 名のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定により、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>本日の議事は、「丸亀市人口ビジョン及び丸亀市未来を築く総合戦略（素案）について」「その他」の 2 点となっております。1 つ目の議事について事務局の説明を求めますが、内容が分厚いので、分けて議論を進めたいと思います。まずは人口ビジョン部分についてお願いします。</p>
政策課真鍋	<資料に基づいて説明>
村山会長	<p>人口ビジョンについては、これまでも議論してきましたが、この素案についてご意見、ご質問があればお願いします。</p>
三谷委員	<p>現在の人口移動の状況はどうなっていますか。</p>

政策課真鍋	<p>社会増減については、2010 年が-35、2011 年が+254、2012 年が+162、2013 年が-150、2014 年が+245 と年によって増減を繰り返していますが、5 年間では 476 人の転入超過となっています。</p>
村山会長	<p>素案では、社会増減や自然増減、合計特殊出生率など丸亀市の人口が今どのような状態にあるかという部分が少し欠けていますので、構成を見直して欲しいと思います。</p> <p>他に意見もないようですが、なお気付いた点等がありましたら、今月中をめどに事務局までお願いします。続いて、総合戦略に入りたいと思います。具体的な施策に入るまでの部分について事務局の説明を求めます。</p>
政策課真鍋	<p><資料に基づいて説明></p>
村山会長	<p>P 30、31 に出てくる基本目標や基本施策については、この後に細かく見ていくことになります。全体的なところで何か意見等がありますか。</p>
新川委員	<p>基本施策を見ると、「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」の中で「ひとづくり」の部分が薄いのではないかと感じました。また、基本目標 1 の基本施策②「結婚・妊娠・出産・子育てに対する不安の解消」について、「不安の解消」は、基本目標 4 の基本施策②に「生活不安の解消」があるので、より積極的に支援していくという意味合いで「支援」に変えた方が良いと思いました。</p>
村山会長	<p>「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」と基本施策との繋がりがあった方がよいように感じます。</p>
大喜多政策課長	<p>「ひとづくり」については、この総合戦略、本市の地方創生全体を通じての大きなテーマですので、どの基本施策にあたるというよりは、それぞれの基本施策の事業の中に散りばめていきたいと考えております。「不安の解消」については、様々な市民意見などを見て、幅広い支援の中でも、特に「不安の解消」に力を入れたいという意図で、こういった表現を用いています。</p>
村山会長	<p>意見の分かれるところですが、「不安の解消」の方がインパクトはあります。</p>
高木明委員	<p>P 29、30 で、特に優先的かつ重点的に取り組むリーディングプロジェクトが記載されていますが、P 31 以降の具体的な施策では出て来ていないので、そこは関連付けておいた方がよいと思います。また、もっと分かりやすく、具体的に担当部署や取組内容も記載してはどうでしょうか。</p>
大喜多政策課長	<p>関連付けやイメージの湧くような具体的な記述について検討します。</p>

奥田委員	リーディングプロジェクトにある丸亀社会人大学については、先日の市議会でも話が出ていましたが、具体的な構想があるのですか。
大喜多政策課長	現在、地方創生の中での新たな取組として、創業者支援や地域づくり、ひとづくりといった面での社会人向けの学びの場を創設することを検討しています。
奥田委員	丸亀に優れた企業を起こして、働く場を確保するという意味でよい取組と思いますが、今は創業支援などを行っている部署はないのですか。
大喜多政策課長	創業支援制度などがありますが、さらに力を入れて、インキュベーションなどにも取り組んでいこうという考えです。
善勝委員	丸亀市では、創業支援事業計画が策定できていないために、国からの支援が受けられません。そのため、丸亀で創業したい人でも、そういった支援を求めて高松などで創業することにしたというケースが出てきています。ぜひ、丸亀市でも策定して欲しいと思います。
大喜多政策課長	検討したいと思います。
守家委員	全体として、丸亀の活性化を図るというイメージは伝わってきますが、できる人たちのものであって、何らかの支援が必要な人たちへのやさしさが置き去りにされているように感じます。未来を築くという意味では、だれもがまちづくりに貢献できるという視点を入れて欲しいと思います。
村山会長	では、次に「具体的な施策」の部分に入って行きたいと思います。基本目標1の「自然増をめざす」について事務局の説明を求めます。
政策課真鍋	<資料に基づいて説明>
高木明委員	「子育て」という言葉が多く用いられていますが、就学前までくらいの小さい子どもを対象としていると感じます。せめて思春期くらいまで対象を広げるべきと思いますが、いかがでしょうか。
政策課真鍋	おっしゃるとおり、基本目標1は自然増に係わる部分ですので、小さい子どもを対象とした施策や取組が入っています。それは、小中学生や高校生などを視野に入れていないということではなく、そこには、他の基本目標のところアプローチし、総合戦略全体として、あらゆる世代、人びとを対象としたものにしたいと考えています。

三井委員	K P I に待機児童数がありますが、現状 0 人なので、達成されていない別の目標を立てた方がよいのではないのでしょうか。
政策課真鍋	待機児童数は、ずっと 0 人を継続することが大切という意味で K P I に掲げていますが、別の目標についても検討します。
三谷委員	合計特殊出生率を 2035 年に人口置換水準の 2.07 まで上げようという割には、具体的な取組が弱いと感じます。国や県の動向にも左右される事項とは思いますが、アンケート等を見ても、子どもを産まない理由としては経済的な不安が大きいようですので、そういった面で、もっと踏み込んだ取組をして欲しいと思います。
大喜多政策課長	子育て支援に関しては、国県市で進めていかなければなりません。国や県の動向も注視しながら、市にできる不安の解消や負担の軽減、環境の整備など総合的な支援を行っていきたいと考えています。
佐藤委員	<p>子どもも欲しくないという人も一定数いる中で、子どもを欲しい人が欲しいだけ産める環境づくりが大切だと思います。特に 3 人目以降を経済的な理由から諦めている人が多いと推測されるので、そういった層への経済的支援を考えて欲しいと思います。</p> <p>また、人口減少問題については、丸亀市だけでなく広域的な視点から考えていく必要がありますので、近隣の市町や県など広域的な連携を考えて欲しいと思います。</p>
山田市長公室長	<p>経済的な支援策については、予算の関係もありますが、総合戦略に書き込んだ子育て支援策を総合的に充実させていきたいと思います。</p> <p>広域連携については、瀬戸内中讃定住自立圏でも、できることから連携していくという方向性で合致しており、観光、文化、スポーツなど取組を広げているところですので、人口減少問題に向けても、協力連携していきたいと考えています。</p>
糸杉委員	K P I について、現状値が全国平均や他自治体と比べてどうなのかということが分かるとよいと思います。また、アンケート調査の数値を用いていますが、感覚的にしかよし悪しの判断ができないものは参考に止めて、目標には統計的な数値を用いたほうがよいと思います。
西川委員	ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画を進める上で、男性の家事時間を増やすなどの目標を挙げていますが、共働き家庭が多い状況では、意識改革に加えて長時間労働や休みが取りにくいなどの働き方改革も必要ですので、個人に対しての啓発だけでなく、企業への働きかけ、評価の取組を進めて欲しいと思います。
政策課真鍋	総合評価への反映や表彰制度など、企業のイメージアップにも繋がる施策を考えていきたいと思います。

新川委員	<p>前回の資料では、基本目標1「自然増をめざす」で、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画を一緒にして大きく扱っていましたが、今回は、男女共同参画が基本目標の3に移っており、少しトーンダウンした印象を受けます。どのような考えでこうなったのでしょうか。</p>
政策課真鍋	<p>男女共同参画室と話し合った結果、総合戦略の体系に幅広く視点を落とし込みたいということで、基本目標1「自然増めざす」にはワーク・ライフ・バランス、基本目標2「社会増をめざす」にはハラスメント対策、基本目標3「魅力を高める」には男女共同参画というように分けたものです。ここは本戦略の重要な部分であり、印象が弱まっているように受け止められているとすれば、意図とは違う方向になっていますので、再度、検討したいと思います。</p>
明石委員	<p>少数かもしれませんが、母子家庭や父子家庭、婚外子といった難しい環境にある家庭への支援も考えていく必要があると思います。</p>
村山会長	<p>基本目標4「安心を高める」に関わることもかもしれません。</p>
大喜多政策課長	<p>子育てに対する不安の解消にあたると思いますので、表現を検討したいと思います。</p>
村山会長	<p>次に、基本目標2「社会増をめざす」に移りたいと思います。事務局の説明を求めます。</p>
政策課真鍋	<p><資料に基づいて説明></p>
明石委員	<p>今回のアンケート結果である「丸亀市に愛着を感じている市内高校生徒の割合」54.5%、「市内高校生徒のUターン希望者の割合」37.9%については、どのような評価をしていますか。</p>
政策課真鍋	<p>「愛着」については、半数以上とはいえ、もっともっと多くの高校生に丸亀を好きになってもらいたいという思いがあります。「Uターン希望」については、3人に1人以上と地方都市としてはありがたい数値ではありますが、高校生に丸亀には仕事がないというイメージが定着してしまっていますので、そのあたりを変えることで、上積みが見込めるのではないかと感じています。</p>
中田委員	<p>Uターンについて実数の把握はできていますか。また、工業製造品の年間出荷額2,451億円は他の自治体と比べてどういう数値になっていますか。</p>

政策課真鍋	Uターンの実数把握については、今年度から市民課の窓口で転入手続をした方にアンケート調査を行っていますが、回収状況が芳しくないので、正確な実数の把握はできていません。工業製造品の年間出荷額については調べて報告します。
大喜多政策課長	大学生などは住民票の移動を伴わないケースも多く、実数の把握はたいへん難しいところです。他自治体では、同窓会名簿などから率を算出しているところもあるので、工夫して実態の把握に努めたいと思います。
村山会長	回収率が芳しくないのなら回収方法の見直しも考えた方がよいと思います
三谷委員	Uターン促進のためには、基本目標①「丸亀が大好きな子どもの育成」が非常に重要だと思います。この部分で郷土教育などもっと具体的な表現を書き込めればよいと思います。
西川委員	Uターン就職すれば返済が有利になる奨学金制度や企業の地元採用枠をつくることはできないでしょうか。
政策課真鍋	そのような取組は、先進事例もありますので、研究していきたいと思います。
山田市長公室長	企業は全国から優秀な人材を集めようとしている中で、そういった企業が求める人材を地元で育成できるような取組も考えていきたいと考えています。
村山会長	では、基本目標3「魅力を高める」について事務局の説明をお願いします。
政策課真鍋	<資料に基づいて説明>
明石委員	基本施策①「ひとが輝くまちづくり」では、高齢者が輝くという視点も入れて欲しいと思います。また、基本施策③「地域資源を生かした観光振興」の中に、全国から注目を集めている猪熊弦一郎現代美術館の固有名詞を出して欲しいと思います。
村山会長	基本施策①「ひとが輝く」を「だれもが輝く」に変えることにします。
守家委員	現実的には、女性の社会進出が進む一方で、子どもが母親と接する時間が短くなることや女性がどんどん外に出て行くことに対する抵抗感が生じるなど負の側面も出てきますので、取組を進めるにあたっては、マイナス面を抑えることも考慮して欲しいと思います。
大喜多政策課長	基本目標1の中のワーク・ライフ・バランスにも関わってきますので、戦略全体を通じて考えていきたいと思います。

村山会長	<p>それでは、最後に基本目標4「安心を高める」以降について、あわせて説明をお願いします。</p>
政策課真鍋	<p><資料に基づいて説明></p>
善勝委員	<p>アンケート結果を見ると、現在32.3%の人が不安や困りごとがないと答えていますが、10年後には38.3%の人が親や自分の介護に不安を感じています。安心を高めるという意味では、介護についての取組が大切になると思います。また、統計を見ると、高齢化率は飛躍的に伸びますが、高齢者の数は減っています。このシェアは増えているが、マーケットとしては縮小していくという状況を考慮しておくべきだと思います。</p>
村山会長	<p>「地域公共交通路線数」や「市民相談件数」については、もう1度、KPIにふさわしいかどうかの検討が必要だと思います。</p> <p>また、全体を通じてですが、P14からのシミュレーションのところが少し分かりにくいので、表現や見せ方を工夫したほうがよいと思います。</p>
村山会長	<p>他の委員からも何かありませんか。</p> <p>特にないようですので、議事2の「その他」に移ります。事務局から何かありますか。</p>
政策課真鍋	<p>本日の資料をもとに、明日9月19日から10月18日までの1ヶ月間パブリックコメントを実施します。本日の意見やパブリックコメントを踏まえて、次回10月下旬の会議では、最終案をお示ししますので、よろしくお願いします。</p>
村山会長	<p>以上で本日の会議を閉会します。</p>